



世界に発信！新宿ブランド①

まちの魅力を再発見 今回は早稲田

2020年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。メインスタジアムの国立競技場がある新宿区にも、世界中から多くの方が訪れます。

多様な顔を持つ新宿の名所をシリーズで紹介します。皆さんと一緒に、新宿の魅力を発信していきませんか。

夏目漱石ゆかりの地

新宿区は国民的文豪・夏目漱石が生まれ育ち、その生涯を閉じたまちです。

漱石が晩年を過ごした早稲田南町の家は「漱石山房」と呼ばれ、現在は、敷地の一部が区立漱石公園となっています。

新宿区では、この旧居跡に、漱石生誕150周年に当たる平成29年(2017年)2月の開館を目指し、漱石初の本格的な記念館の整備を進めています。昨年7月には「夏目漱石記念施設整備基金」を設置し、全国からご支援をいただいています。

漱石は、明治40年(1907年)に朝日新聞社に入社し、本格的に作家の道を歩み始めま

した。「漱石山房」で執筆された代表作「こゝろ」の朝日新聞での連載が始まってから今年で100年。同紙で「こゝろ」の再連載が始まっています。



漱石公園入口の漱石胸像

歴史が息づく早稲田大学

明治15年(1882年)、大隈重信が創立した東京専門学校を前身とする早稲田大学。構内には、昭和39年(1964年)の東京オリンピックでフェンシング競技が行われた記念会堂(戸山キャンパス)など、歴史や文化を感じられる場所が数多くあります。

坪内博士記念演劇博物館は、早大文学部の創立者で小説家の坪内逍遙が古希(70歳)を迎えたこと、「シエークスピア全集」の翻訳が完成したことを記念し、昭和3年(1928年)に設立されました。世界各国の演劇・映像に関する数十万点の資料を備え、文学・歴史・服飾・建築など多様な分野の



演劇博物館

研究にも活用されています。16世紀のシエークスピアの時代の劇場を模した建物は、区の指定有形文化財で、正面玄関を中央舞台として演劇が上演できるようになっています。

わたしのまち新宿

5月は早稲田を特集

ケーブルテレビの
広報番組



神田川・早稲田さくらまつり

5月から、地域の多彩な魅力を紹介する区の広報番組「わたしのまち新宿」がスタートします。地域で活躍する皆さんが登場し、愛着ある「わたしのまち」をPRします。



スタンドパイプを使った防災訓練

地域の取り組みなどを紹介します。

- 番組の放送
 - 5月1日(木)～31日(土)、JCNみなと新宿(11チャンネル)で、毎日3回放送します。
 - ▼午後0時30分～0時50分
 - ▼午後4時～4時20分
 - ▼午後11時～11時20分



地域で活躍する皆さんをレポート

政情報センター(本庁舎1階)、区立中央図書館(大久保3-1-1、旧戸山中学校・四谷図書館(内藤町87)でDVDを貸し出します。

【問合せ】区政情報課広報係(本庁舎3階) ☎(5273)4064・FAX(5272)5500へ。

※ケーブルテレビの受信については、JCNみなと新宿 ☎0120(914)000へ。

歌舞伎町アートプロジェクト始動

多彩なアートで

明るく楽しい歌舞伎町を発信

誰もが安心して楽しめるまちにするための取り組み「歌舞伎町ルネッサンス」の一環として、歌舞伎町をアート作品の発表の場として活用し、アートでまちを明るく楽しく演出する「歌舞伎町アートプロジェクト」が始まりました。

3月下旬には、歌舞伎町1丁目と2丁目を横切る花道通りに、色鮮やかな富士山が描かれたトランスボックスが登場しました。さまざまなジャンルの5名のアーティストが、日本のシンボルを独創的に表現し、外国人観光客にも日本

の魅力がPRされています。また、歌舞伎町一番街のアートなどが描かれたトリックアートや、クジラやゾウ、ライオンなどの動物が行進する様子を描いた作品が、歌舞伎町のまちを彩っています。

今後、夏の一大アートイベント「新宿クリエイターズ・フェスタ」にも連携し、さらにアート作品を増やしていく予定です。

【問合せ】特命プロジェクト推進課(本庁舎4階) ☎(5273)4220・FAX(5273)3931へ。



たくさんの動物が描かれた作品「しんじゅく大行進」は歌舞伎町シネシティ広場の仮囲いに展示



トランスボックスのアートが快適な歩行空間を演出



新宿東宝ビル建設現場(新宿コマ劇場跡地)の仮囲いには不思議なトリックアートが出現